

<<**東北魂**>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有
〒190-0013
東京都立川市富士見町 2-12-13 安藤ビルB 1 F
<http://www.yumuyu.com/>
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up , TOHOKU !

無料

第 16 号

毎月発行

創刊 2013 年（平成 25 年）9 月 16 日 月曜日

2 0 1 3 年（平成 2 5 年）9 月 16 日 月曜日

放射能漏洩対策は国際公約となる！ 被害者そっちのけのオリンピック誘致劇 厳しい海外メディアの追求のおかげで 汚染水の漏洩対策前進とは情けない

【福島第一原発 汚染水漏洩】 世界に知れ渡る

2020年東京オリンピックが決定した。とはいえ、最終誘致プレゼン直前、福島第一原発汚染水漏洩問題への対応について、海外メディアから日本の招致委員へ質問が集中した。それによりこの問題が一挙に世界中に配信され、知れ渡ることとなった。同時に、招致委員の状況認識の甘さが際立つ形ともなった。また、国内メディアがもっと追求すべきだったが、そうならなかったのも残念である。

前号（第15号）では、一連の福島第一原発問題で苦悩する福島県南相馬地区のり防護できるとい

福島第一原発 汚染水漏れ、四カ所で 高線量を観測 （CNN 9/2の記事）

福島第一原子力発電所のタンクから汚染水が漏れた問題で、東京電力は八月三十一日、敷地内の計四カ所で高い放射線量を観測したことを明らかにした。東電は九月一日の声明で、早急な原因究明と対策、作業員の安全確保に努めると述べた。

（中略）

一八〇〇ミリシーベルトの線量は人が数時間浴びると死亡するレベルだが、東電によると観測されたのは透過性の弱い「ベータ線」で、薄いアルミ板などによ

現状をレポートした。そこから大した時間が経っていないところに現われたのがこの汚染水漏洩である。

これまでも次から次へと新たな問題が出現しては現地の人々の再起の意気込みを打ち砕いてきたであろう。そこにまた新たなこの問題の出現であった。福島第一原発半径二〇キロ、三〇キロ圏内の住民の復興への気持ちがなし崩しに崩れていくのを止められないのではないかと心配である。

記憶に留めるため、これまでの一連の経過と政府対応、各メディア報道を並べて、事態を整理してみてほしい。その右往左往ぶりが理解できる。（左欄参照）

福島第一原発のタンクからは先月三〇〇トンの汚染水漏れが見つかり、トラブルの深刻さを示す国際原子力事象評価尺度（INES）が「レベル3」（重大な異常事象）に引き上げられた。

伊豆村房一氏の主張 『原発汚染水との闘い 支える報道を（9/1）』 （MSN産経ニュース）

世界を震撼させた福島第一原発事故が起こってから二年半、事態は収束に向かっているどころか、じつに憂慮すべき状況に陥っている。

同原発で放射能汚染水洩れという異常事態が起こったのだ。高濃度に汚染され

当問題の波紋

今般、日本政府の隠ぺい体質、課題に立ち向かう勇氣の欠如、事態の緊急性への感受性欠如、問題解決構想力のなさを世界が知ることとなった。そして、国際舞台での日本の政治リーダーシップへの信頼感も大きく揺らぐに違いない。

他方、国民、いや特に東北の住民、福島住民は、政府や国内メディアが、何を優先し、何を後回しにしたかを隠しようがないほどに見せつけられた。

日本人は忘れやすいとよく言われる。確かにそういう側面も否定しない。しかし、もっと忘れやすく、次から次へと新しい話題に飛

前に出て收拾急げ」（同日経社説、「国の当事者意識足らぬ」（同毎日社説）などだ。

また、原子力規制委員会による汚染水漏れの事故レベル見直しに対して、「事故レベル評価に時間を費やしている暇はない。汚染水との闘いを忘れるな」（同産経主張）、「あれこれ評価するより事態收拾が最優先。政府一丸となって取り組み」（同読売社説）とハッパをかけた。

海外でも懸念の声が高まっている。英エコノミスト誌は「福島原発の制御不能が目に見えてはつきりしてきた。福島が悪夢に終わりはしない」（同二四日付電子

びつく国内メディアの体質もいやになるほど見せつけられた。

期待される次の行動

こうした事態に対し、『忘れやすい』国民は何もしないのだろうか。何をされても何も言わず、行動もしないのだろうか。それがいま問われている。

幸い、日本は、海外メディアの厳しい追求で、オリンピック誘致と引き換えに、汚染水漏洩対策はじめ放射能対策を国際舞台で公約することになった。それは結果論であるが、良かった。今後、国民はけっして忘れることなく、「国際公約」実現を厳しく監視しなければならぬと強く思う。

ト・ジャーナル紙は「メルトダウン以来最大の試練」（同二二日付電子版）と題した記事の中で、東電が原発敷地を流れる地下水をコントロールできなくなっている」と指摘する。

もはや事態は、東電の危機管理能力不足を問題にしているときではない。日本という国の危機管理能力が問われている。その問いにしっかりと答えられなければ、2020年東京開催をめざす五輪招致も危ふまれる。海外には、日本は五輪開催を辞退すべきだという意見さえある。

こうした世界の不安を払拭するには、まず国を挙げ汚染水と闘う姿勢をはっきり示すことだ。

きり示すことだ。

（中略）

新聞は、政府の場当たり的対策を批判しがちだが、もっと視野を広げ、世界の情報と英知を結集し、それこそ国を挙げた汚染水との闘いを支えるような報道姿勢をとるべきではないか。

汚染水漏れ、 国会チェック機能 果たさず 審議先送り （朝日新聞デジタル 八月三〇日配信）

東京電力福島第一原発の放射能汚染水漏れをめぐり、国会の機能不全が露呈した。2020年東京五輪招致への影響に気兼ねし、衆院経済産業委員会の閉会中審査が先送りに。五輪のために汚染水問題にふたをしたとの批判を招きかねない対応に被災地では怒りの声が上が

る。五輪招致関係者からは「逆に招致に悪影響を与え」との懸念も出ている。

三〇日、国会内で開いた衆院経済産業委員会の理事懇談会。自民党の塩谷立筆頭理事が「安倍晋三首相も政府を挙げて取り組むと言っている。もう少し時間をとったうえで検討したい」と表明した。民主党の近藤洋介筆頭理事は現地視察を提案。政府側が五輪招致を決める九月七日の国際オリンピック委員会（IOC）総会前に打ち出す汚染水対策を見極めることで、事実上先送りを容認した。

もともと閉会中審査は、野党の要求に応じる形で自民党が開催を検討した。だが、五輪開催地の決定直前に開けば、審議を通じて事故の深刻さや政府の対応の遅れがさらに強調されて世界に伝わり、東京招致に悪影響を及ぼしかねない――。こんな懸念が政権内に広がった。

政府・与党、 東電任せを反省 強い危機感 福島第一汚染水漏洩 （産経新聞 9/3 抜粋）

政府がここへ来て対策に本腰を入れた背景には、2020年夏季五輪の開催都市を決めるアルゼンチンでの七日（日本時間八日）の国際オリンピック委員会（IOC）総会を前に「汚染水問題が東京招致へのネガティブキャンペーンに使われている」（首相周辺）事情もある。政府としては総合的な対策を公表することで国際社会に理解を求める考えだ。

「脱原発、正しかった」 メルケル独首相が 福島に言及 （朝日新聞 DITAL 9/2） 【ベルリン＝松井健】

ドイツのメルケル首相は一日、二二日の総選挙に向けたテレビ討論で、東京電力福島第一原発の放射能汚染水漏れを念頭に「最近の福島についての議論を見て、（ドイツの）脱原発の

決定は正しかったと改めて確信している」と述べた。独メディアは汚染水漏れについて批判的に報じている。（以下略）

被災者らが 東電社長らを刑事告発 福島原発の汚染水漏れ （朝日新聞 DITAL 9/3）

東京電力福島第一原発から高濃度の放射能汚染水が流出している事故をめぐり、福島県の被災者らが三日、東電の広瀬直己社長ら幹部三二人と法人としての同社を、公害犯罪処罰法違反の疑いで福島県警に刑事告発した。同社の汚染水管理のずさんさが大量の流出を招いたとしている。

告発したのは、福島原発告訴団の武藤類子団長ら三人。東電の現職幹部のほか、勝俣恒久前会長ら元幹部も告発の対象とした。

福島第一原発では八月、タンクに保管された高濃度の汚染水が約三〇〇トン漏れていた事故が発覚。含まれる放射性物質は二四兆ベクレルと推計され、原子力規制委員会が国際原子力事象評価尺度で八段階中、上から五番目の「レベル3」に相当すると発表している。また、山側から流れ込み、原発施設で汚染された一日あたり推計約三〇〇トンの地下水が、海側に流出していることも判明している。



宮城県涌谷町の篁峯寺

は正しい歴史に代わって虚偽の歴史を押しつけることで歴史を消去した可能性があると仮定すると、なぜある時期を境に、忽然と歴史が消えているのか、説

過去をすぐ忘れる人間

人間は何でもすぐ忘れる。昨日のことも一年前のことも忘れる。ましてや何十年も前のことなど忘れるのが当たり前である。ましてや何百年も前、あるいは千年以上前のことなど、わずか八〇年の平均寿命の一個人が覚えている訳がない。

「埋もれた東北文化を掘り起こす旅」その④ 「東北にとって大同 2 年（807 年）という年の意味すること ①」

少なくとも東北古来の宗教関連建造物の由来を塗り替えられた年であるのは間違いない

では歴史はどうやって忘れずにいるのか。何度も何度も語り継ぎ、あるいは文書その他で記録し、子から孫へ、曾孫へ、玄孫へと継承していくことで忘れないのだ。この語り継ぎ、文書での記録を止めたら、個人の記憶も、集団としての記憶も、民族としての記憶も永遠に忘れ去られる。

東北の歴史継承の強制中断はあったか？

この継承作業をやめない限り、歴史は語り継がれ、文書に残されるが、もしこうした継承作業を無理やり中断させられたら、当然のことながら歴史は消える。

歴史上何度も中央から侵略を受けた東北の歴史にそうしたことがなかったとは言いが切れない。むしろそう

したことがあったと考える方が自然である。それも念入りに、継承される歴史が微塵も残らないように消し去り、語り継ぐ方法も遮断

大同二年（807 年）との出会い

（涌谷↓花巻）

数年前のこの奇妙な年との初めての出会いは、筆者の故郷の宮城県遠田郡涌谷町にある古寺、天台宗無夷山篁峯寺（こんぼうじ）、別名篁岳観音（ののだけかんのん）の創建年が大同二年であったことである。特に山頂にある観音堂は、征夷大將軍坂上田村麻呂がこの地において蝦夷を討ったとき敵味方の戦死者を葬り、京都清水寺の十一面観音を勧請、僧延鎮を以って開山、大同二（807）年に建てたものと伝えられるとの記述であった。これで田村麻呂と大同二年という言葉が脳裏に刻まれた。

次の出会いは、今年岩手県花巻市にある胡四王神社を訪れたとき、由来を記載した看板を見て「大同二年」を発見したこと。坂上田村麻呂が東夷東征の際、戦勝祈願し兜と薬師如来を奉納したのが始まりとあった。先

の篁峯寺と同じ創建年、しかも田村麻呂に関連するというのも同じ。単なる偶然とは思えなかった。

東国三社にも関連

さらに、こうしたことにまったく関連のない本を読んでいた時にもまた大同二年を発見した。

東国三社といわれる鹿島神宮、香取神宮、息栖（い

きす）神社のうち、息栖神社の移転した年が大同二年のこと。社伝によれば、応神天皇の時代に、現在地よりも南西の日川地区に創建されたとき、大同二年（807 年）になって現在地に移転した。移動する前は、これら三社は正三角形の位置にあり移動により変形した。これにより三社全体で形作られていた「パワ

ー」が矮小化したという人もいる。また、これに関連して、鹿島神宮のご本尊や参道にも修正が加えられたという指摘もあるようだ。

十和田神社の創建年

さらに続く。今月に訪問する予定の青森県の十和田湖畔にある十和田神社の創建年も大同二年であった。坂上田村麻呂が蝦夷討伐の必勝を祈願し日本武尊（ヤマトタケルノミコト）を祀って大同二年（807）に祠を建てたのを起源とする

と伝えられている。もうここまで大同二年という年に囲まれると、この年が非常に奇妙で胡散臭い年であると確信させるには十分すぎる。

しかも、篁峯寺も、胡四王神社も、息栖神社も、十和田神社も、大同二年よりずっと古くから存在していたと思われる。それなのにわざわざ創建年を大同二年にする意味は何か。そ

ろいもそろってこの年に統一する意味は何か。次から次へと疑問が湧いてくるのを止

められない。

他にもたくさんある 大同二年関連伝承

前述の四件の伝承以外にも大同二年に関連する伝承はあるのかどうかを調べてみようとしてパソコンでちょっと検索してみた。そうしたらさまざまな出来事があったことが分かる。主に、神社仏閣の創建関連が多いが、そのほかの文化に関連することもある。ありすぎるのである。とても検索しきれない。読者もぜひ検索してみてほしい。

ちなみに、筆者の興味本位で下記に項目別に分類して、その一部を拾ってみる。

この年に

何が起こったか

なぜこうしたことがこの年に集中して起きたのか、あるいは起きたように伝えられているのかわかりにくい。というよりも、何らかの意図なしにこうしたことが存在する訳がない。

かつ、このことが歴史研究において大きく取り上げられていないことも不思議である。この問題に真正面から取り組むことはタブーなのか。

キーワードは「坂上田村麻呂の東征」であり、「蝦夷討伐」である。一説にはこの年に先立つ802年に、蝦夷の頭領である「アテルイ」が処刑された年であることも関連していると思われる。しかし、田村麻

呂の東征

は、少なくとも大同二年の807

年まで続いたようであるから、この約五年の差も気になるところである。

とはいえ、もしこれらのことが歴史的真相ならば、東北にとつて非常に重要な年であり、大和朝廷にとつても重要な年であった可能性がある。だからこそ恣意的な変更が加えられた可能性があるのではないか。

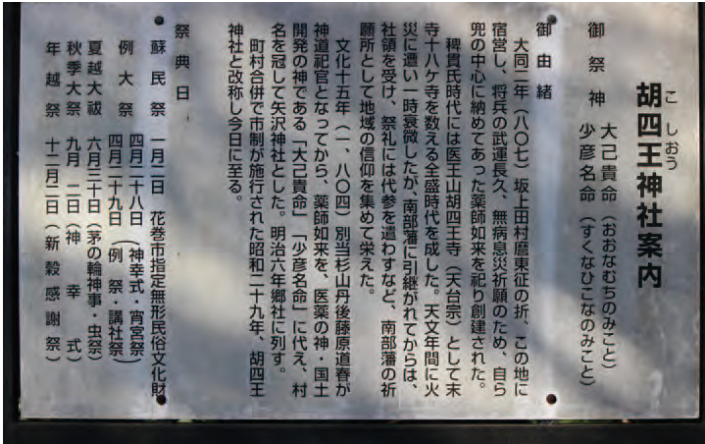
大同・延暦年間とは

大同年間とは、延暦の後弘仁の前の、806 年から810 年までのたった四年の期間を指す。この時代の天皇は平城天皇、嵯峨天皇である。

筆者は、それよりもこの前の延暦年間に注目したい。延暦年間とは782 年から806 年までの期間で、この時代の天皇は桓武天皇である。

この桓武天皇と大同二年の伝承とが深く関連しているのではないかと筆者は推察する。

桓武天皇は784 年に長岡京に遷都したが、わずか



岩手県花巻市 胡四王神社

大同二年に 起きたこと あるいは起きたと 言われていること のリスト

【神社創建】

東北各地の神社の創建に関する年号はこの年とされる。また、茨城県の雨引千勝神社の創建はこの年である。早池峰神社、赤城神社なども同様である。また福島県いわき市の湯の嶽観音も、この年の三月二日に開基されたところ。清水寺、長谷寺などの寺院までこの年に建てられたとされ、富士山本宮浅間大社も、大鳥居の前に堂々と大同元年縁起が記載されている。各地の小さい神社仏閣にいたるまで枚挙にいとまがないほど、大同二年及び大同年間はその創建にかかわる年号である。

一〇年で平安京に再遷都した。遷都は国家の一大事業である。一説には、天皇の実質的な主権を回復するため、肥大化した当時の仏教勢力やその他勢力の勢いを削ぐために遷都したが、廃太子した早良親王の怨霊で

さまたげられた。この再遷都とも言われている。延暦一九年（800）から大同二年（807）までの期間に、富士山が噴火（延暦大噴火）もしている。

他方、アテルイ以下の「蝦夷軍団」はこれら都の事情と混乱を冷静にキャッチし、分析したのであろう。そして、田村麻呂が征夷大將軍になる前に、大軍勢を派遣してきた大和朝廷に対して大攻勢をかけたとも思えるのである。その対応に桓武天皇も「蝦夷許すまじ」と考えても当然であろう。

【鉱山に関すること】

阿仁鉱山や尾太鉱山が発見された年号にも使われている。高根金山、吹屋銀山をはじめとする各地の鉱山の開坑も、大同年間や大同二年とするものが多い。

【自然災害に関すること】

那須連峰の茶臼岳旧火山の噴火、尾瀬ヶ原の燧方岳の噴火、蔵王刈田岳の噴火もこの年であるとされる。会津磐梯山の噴火は大同元年だが、その噴火を鎮めるために、大同二年に山麓に恵月守が建てられたといわれる。日光の男体山で早魃を静めるために勝道上人が祈ったという印象を受けるが、実はこれらの山が噴火したり、早魃がひどかったという証拠は全くない。いいほど見つからない。

＊もしかすると大同年間は大変地獄の多い年ではなかったのかという印象を受けるが、実はこれらの山が噴火したり、早魃がひどかったという証拠は全くない。

【鬼退治伝説】

八溝山（茨城・福島県境）や森吉山（秋田）、気仙郡岩手）などの鬼退治もこの年と伝えられている。

【温泉に関すること】

山形県の肘折温泉に伝わる「温泉之縁起」史料の中に、大同二年あるいは大同年間に温泉が開かれたという記述がある。

【神楽の起源】

神楽の起源も大同二年作と伝えられている。



全員集合 かなりイイ気分



お酒の栓を抜くのが待ちきれない



生ビールはチェイサー代わり

まったくの素人の手探り状態で開始した【三陸酒海鮮会】も、渋谷・焚火家さんをはじめとして、多くの方々のご協力のもと、八月三日の第三回目を無事終了できましたことをご報告いたします。

三回目ですので、ほぼ二カ月の間隔で開催してまいりました。今後も二カ月間隔で継続し、次回は一〇月二六日を予定しております。最近ではあちこちで、被災地の水産物等の消費と復興支援を目的としたボランティア型、慈善型の支援事業が種々の事情で次々に撤

退を余儀なくされていることに心を痛めております。しかし当イベントはますます協力者、参加者が増えておりあらためて感謝申し上げます。

ような夏向きメニューとなりました。あぶりしめサバ、さんまの蒲焼、ホタテ焼き、ホタテのヒモの刺身、ホヤの塩辛などをおかずにして、おいしい日本酒もたくさんお出しして、とても楽しい会となりました。

当然ながら毎回同じメニューでは飽きてしまいますので、今後ともよろしくお願いいたします。

第 3 回 三陸酒海鮮会

夏向きメニューで大盛会

（渋谷・焚火家にて 8/31）

次回は 10/26（土）予定



日本酒、あぶりしめサバ、さんま蒲焼、ホタテ焼き、ホタテヒモ刺身

ので、季節ごとのメニューを提供してまいります。三陸の海産物はもとも種類も豊富ですので、この点ではまったく心配しておりません。

拡大する参加者の輪

また、今回は初参加の方も大分おられました。これまではなかなか都合がつかず参加できなかったが、三回目にしてようやく参加できて良かったという方もおられました。あるいは、初回からの常連さんもおられ、その常連さんがまたお友達を誘って参加されるなど、支援の輪は確実に拡大しております。

三陸の海産物を食べて、三陸のおいしい日本酒をたらふく飲んで、三陸復興を支援するという「ゆるーい」支援の形ですが、とにかく長く継続したいと思いますので、今後ともよろしく

【三陸酒海鮮会】拡大で復興支援強化

開催地も規模も拡大のため協力者募集開始！

渋谷から日本橋へ、東京から東北へ

東北は盛岡がスタート、そしてさらに拡大

年内三カ所に拡大予定

現在、渋谷・焚火家一ヶ所のみで開催中の【三陸酒海鮮会】も何とか三回目を数えるまでとなりました。今後、東京圏ではもう一ヶ所、日本橋での開催を追加する予定です。

また三陸復興支援を掲げながら東北開催がまったくないのでさびしいという声があり、その声にお応えするため協力者を探しておりますが、盛岡で協力者が見つかりました。それで今秋にも盛岡で開催する予定となったということは前号でお知らせいたしました。これらが実現すると年内にも合計で三カ所での開催

復興支援と呼ぶにはまだまだ力不足

しかし、よく考えてみると、三カ所での【三陸酒海鮮会】が成功しても、三陸被災地への貢献は小さいと言わなければなりません。もっとこのイベントを拡大していく必要があります。

協力者求む！

左図の通り、イベントとしての基本構造は非常にシンプルで、かつ関係者には余分な負担がかからず、長期継続可能な仕組みです。震災発生から二年半経過で多くの復興支援事業が撤退を余儀なくされているので、最小限の負担で効果的な支援、それも支援と意識せずに支援するような仕組みを心掛けようと思いま

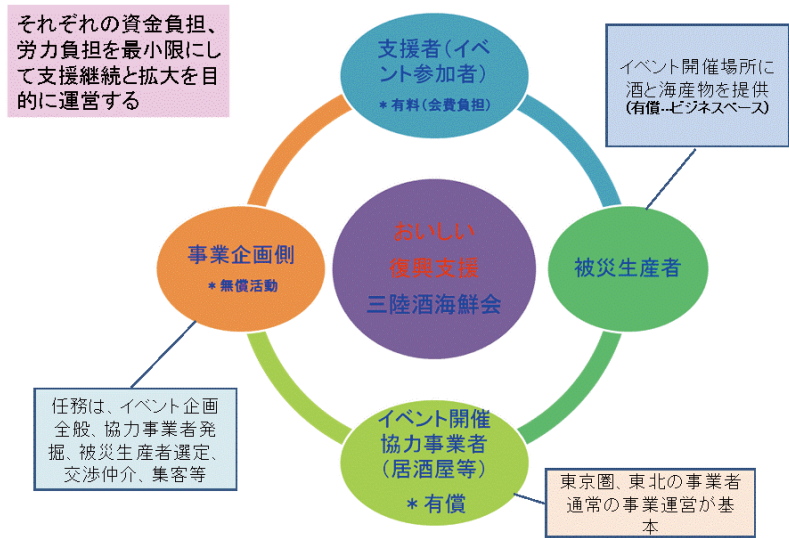
す。多くの協力者の方に名乗り出いただき、三陸の復興支援にご協力いただけるようお願い申し上げます。

三陸被災事業者支援のための【三陸酒海鮮会】（さんりくしゅかいせんかい）協力者募集告知

地元でも気づいていない【三陸PRODUCTS】の魅力を十二分に引き出し、広くPRすることで、「震災前復旧」ではない「水産業再興」を目指すことがけとなることを目指すプロジェクト企画

震災発生2年5カ月を過ぎ、震災発生直後から始まったNPO等による支援者の慈善をベースとした支援企画が次々に撤退する状況のなかで、将来に亘って継続可能な新たな方式の復興支援事業が求められている。当企画はそのなかでも、【三陸PRODUCTS】である「お酒と海産物」を被災地外で継続消費することで被災事業者をサポートする事業企画。特徴は、① お金のかからない事業仕掛け、② 主催者側も最小限の出費、③ イベント協力事業者には通常の営利事業を運営してもらう、④ 支援者には三陸の美味しいお酒と海産物を低料金で楽しんでもらうという4点で、関係者や支援者の資金的、労力的負担を極力減らし、継続のための負担も減していく企画。三陸復興支援に協力的な広範囲の支援者を取り込む緩い仕掛けであり、被災地外でも気軽に支援できる仕掛けでもあり、東京圏内からスタートし、東北各県へと開催地を拡大して、支援規模も拡大していく。

事業関係者の関係概要図例



「防潮堤を勉強する会」ができた背景

先号の最後で触れた防潮堤についてさらに考えていきたい。気仙沼で住民有志が設立した「気仙沼市防潮堤を勉強する会」では、現在進行中の防潮堤計画につ

いて、正しい知識をもとに市民が納得して進められるよう、その根本となる法的根拠や行政の基本方針、根本的なルール、決定・建設のスケジュールなどの基本情報を整理することや、各地区における防潮堤に関する情報を交換する取り組みを行っている。二〇一二年八月に発足してから現在までに一四回の勉強会を開催し、積極的に活動を行っている。

気仙沼でこうした動きが活発なのにももちろん理由がある。防潮堤の建設の進捗については、被災三県の間で大きな違いがある。原発事故を抱える福島県では、福島第一原発に程近い浪江町から富岡町にかけての沿岸では、被害状況すら査定が終わっておらず、防潮堤の復旧箇所や新規建設箇所がまだ確定していない。岩手県では、計画の進捗に遅れはあるものの、すべての地域で地元住民の同意が得られている。これに

対して宮城県では、三県で最も長い総延長を抱えるとは言え、地元住民の同意が

執筆者紹介

大友浩平

（おおもこうへい）

奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。

「東北ブログ」

<http://blog.livedoor.jp/anagmash/>



Facebook
<https://www.facebook.com/kouhei.ootomo>

現在、岩手、宮城、福島の東北三県で進む防潮堤の建設計画は総延長約390km、総事業費は実に約八五〇億円に上る巨大事業である。その高さは震災前を大きく上回り平均10m前後で、高い場所では14mを超える。しかも、今回の震災で多くの防潮堤が倒壊した反省を踏まえて、復旧に当たっては、津波が防潮堤を越流したとしても直ちに全壊しないような「粘り強い構造」を持つことが求められている。この「粘り強い構造」については、防潮堤のつづべんの幅を3m以上確保すると共に、壁面の勾配を1：2程度に緩くする、といった基本的な方針がある。つまり、防潮堤の断面の形が、上底の長さと同底の長さが大きく違う台形をしていることになる。

なぜ宮城県では計画の変更を一切認めていないのか。その背景には、村井知事の「L1に勝つ堤防を造ることとは譲らない」との姿勢がある。L1については後述するが、こうした一切の妥協を排した姿勢を貫いているがために、計画が前に進まないでいるのである。気仙沼市では、漁業や景観への悪影響を懸念する声が多く挙がっているのである。そうした声の多さが、「防潮堤を勉強する会」の設立につながったと言える。

防潮堤建設計画の概要とその問題点

この基本的な方針に従うと、仮に防潮堤の高さを10mとした場合、底幅は少なくとも実に43m以上にもなり、海岸を広範囲に覆い尽くすことになる。防潮堤の高さを増したり、勾配をより緩やかにしたりすれば底幅はさらに大きくなる。小規模の砂浜などなくなってしまう幅である。これが390kmの長さで岩手から福島までの海岸に築かれるというのである。

この計画で問題なのは、岩手から福島までそれぞれの地域の実情も反映させずに一律にとにかく防潮堤を築くという選択肢しかないということである。敢えて言えば、防潮堤を築かないという選択肢があってもよいはずである。防潮堤がある

と海が見えず地震の後かえって避難が遅れるという意見もある。防潮堤があるとそれに安心してすぐ避難しようとする動きが鈍るという意見もある。ならば、防潮堤を築かずに高台への避難路を整備する、防災教育などソフト面での対応に一層力を入れる、といった対応も考えられて然るべきであるが、現状ではとにかく防潮堤ありきで計画が行っている。

「国土強靱化」を訴える

自公政権の意向もさることながら、自治体側にも復興予算があるうちに整備しないと後々整備できないという焦りもあるようである。しかし、防潮堤の耐用年数は約五〇年とされる。建設までは国の復興事業だが、その後の維持管理は都道府県の役割である。とりわけ五〇年後の修繕費用は考慮されているのだろうか。

震災後に設置された内閣府の「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する調査委員会」は、その中間とりまとめに伴う提言「今後の津波防災対策の基本的考え方について」の中で、今後の津波対策の考え方について「今後の津波防災対策は、切迫性が低くても東北地方太平洋沖地震や最大クラスの津波を想定し、様々な施策を講じるよう検討していく必要がある。しかし、このような津波高に対して、海岸保全施設等の整備の対象とする津波高を大幅に高くすることは、施設整備に必要な費用、海岸の環境や利用に及ぼす影響などを考慮すると現実的ではない。このため、住民の避難を軸に、土地利用、避難施設、防災施設の整備などのハード・ソフトのとりうる手段を尽くした総合的な津波対策の確立が急務である」と指摘している。

こうした方針を踏まえて、今回のこの防潮堤も、実は東北地方太平洋沖地震規模

の津波（レベルⅡ（L2））を想定したものではなく、数十年～百数十年に一度の発生が予想される「レベルⅠ（L1）」の津波を防げるように設定されているものであり、結局今回の規模の津波は防ぎ得ないのである。あれだけの大災害を経験した立場から見ると、犠牲者を多数出してしまったあのような規模の津波を防ぎえない防潮堤にどれほどの意味があるのかという疑問を感じざるを得ない。しかし一方で、今回の規模の災害は数百年から千年に一度の頻度だが、それよりも小さい規模の災害はより短い周期で起こりうることを考えれば、あながち意味がないわけではないという見解も成り立つ。要はその部分が十分に議論されることなしに、ただ計画だけが進行しているというのが現在の状況なのである。

ただ、ここへ来て、村井知事の姿勢にも変化が見られるようである。九月三日に「防潮堤を勉強する会」のメンバーと村井知事との間で行われた意見交換会の

中で村井知事は、「堤防が高すぎるなら造り方や位置を工夫することで下げる努力をしたい」と語ったとのこと、これまでの姿勢を転換して柔軟に取り組む考えを示している。このことがきっかけとなって地域住民の意向に沿った形で防潮堤の建設計画が進められることを期待したい。

「森の防潮堤」の可能性

こうした防潮堤を巡る問題の中で私が注目している活動がある。「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」の活動である。同プロジェクトでは、被災地沿岸部に津波から命を守る「森の防潮堤」を築くことを目指している。震災で発生した瓦礫を埋めて盛土を築き、その上にシイ・タブ・カシ類を中心としたその土地本来の樹種を植樹して森にしていくというものである。今回の津波で松を中心とする沿岸の防潮林は多くが倒され、流されたが、それは砂地に植樹したものだっただけが一因だとされる。砂地の上に盛土をしてしっかりとした土台を作れば木々はしっかりと根を張ることができ、津波に耐え得るということである。

地本来の木を植えるのは、震災直後現地調査した結果、タブノキやカシ類など古くからその土地で育ってきた木が津波に耐えて生き残っているのを確認したからだという。

この「森の防潮堤」は、仙台市、岩沼市、山元町などの宮城県沿岸や南相馬市などの福島県沿岸で既に実行に移されており各地で植樹が行われているところである。防潮堤が国費で進められているのと対照的に、「森の防潮堤」は寄付で活動が進められている。概ね五〇〇円で1本の苗木を植えることができるのだそうである。防潮堤の耐用年数が約五〇年であるのに対して、森であれば数百年の単位で生き続ける。景観的にも、自然環境に対する影響の点からも、「森の防潮堤」の方に分があるように思われる。

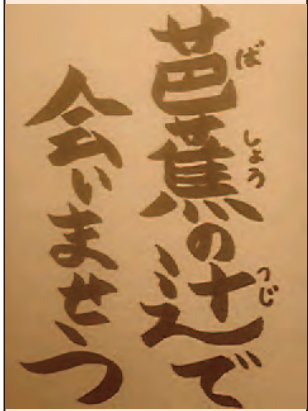
ただ、このプロジェクトについても批判の声はある。その主なものをまとめると、①「土地本来の木」が本来にタブノキやカシ類であるのか、②別の地域の苗木を用いることに問題はないのか、③「森の防潮堤」は本当に津波に耐えうる強度を持っているのか、の三点のようである。

①については、確かに私も東北の主要な森林はタブノキやカシ類のような常緑広葉樹ではなく、ブナのような落葉広葉樹なのではないかという思いがある。た

だ、これはよくよく調べてみると、落葉広葉樹の森が広がるのは、東北でも標高が概ね800m以上の土地であるらしく、それ以下のところは本来常緑広葉樹の森が広がっていたはずなのだそうである。②については、確かに、植樹を早く進めるために、被災地周辺で採集した種子だけでなく、関東方面からも種子の提供を受けているようで、そのことが遺伝的攪乱を起こさないかということである。これは確かにその通りでなるべく早く地元の種子のみにすることが必要であろう。③については、確かに今後検証が必要であるが、一方で地震発生時に仙台市沿岸にある海岸公園冒険広場が震災発生時の津波をしのいだ例を見ても、必ずしも土を盛った構造物がコンクリートの防潮堤より強度で劣るとは言えないのではないかと考えられる。

いずれにせよ、このように見てくると、必ずしもコンクリートの防潮堤ありきの前提で進めなければならないということではなく、多様な選択肢の中からその地に住む住民の意向を踏まえて、防潮堤の在り方について考えるべきなのではないかという思いを強く持つ。幸い、先に触れたように、宮城県においても柔軟に検討される余地ができたようである。ぜひともこれを受けた今後の進展に期待したいところである。

連載
むかしばなし



第四話
丘の上の挨拶

「石を置くのは、各々の山頂です。」

一行は、四百年後に仙臺東照宮が建てられると目される、玉田崎らしき高台に分け入っていた。昭和の暦では九月だがほとんど人の手が入っていない山中、まだ青々とした深い森が行く手を不確かにする。

「こんな風に、青葉山や向山にも登るのか？無謀もいところだ。」

そう洩らす者に、芭蕉は「左様。いずれかは拙僧が単独で参りましょう。もう一方は、山入りにお強い方



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出没し演奏する。フィドル（ヴァイオリン）担当。

に先導願いたいのが」と応える。

「私でよければ、お引き受けしましょう。」

そう言う宮澤賢治は確かに今も既に先頭に立つて、というより独りですすいと上まで行ってしまうて

「それにしても・千年前にはかの大都市も、かように片鱗もないとは、驚きです。」

佐々木喜善が樹々の間から垣間見える眼下の平原を振り返って、言った。

「江戸東京も、そうでしょう。二つの都市は、ほぼ同時代、四百年後に二人の別の武将によって初めて整備される事になるのです。」

芭蕉が山道を跳びながら、説いている。

「お坊様、そのどちらかのお方をよくご存知なのは。」

喜善の指摘に、怪僧の脚が止まる。

「ほう、何故そう思われま

「芭蕉の辻、という十字路が仙臺にはありますね。かつては城下一の賑わいを見せた町の中心であるとか：最近できた市電の終点も、あすこにあります。」

再び芭蕉は歩を進める。

「私にとつて、憧れの都はずっと東京でした。しかし仙臺というのは、どうも気になる町なのです。是非とも戻らねばなりません。ラズオの仕事も頂いておりま

「話し続ける喜善に、ようやく怪僧、顔を向ける。

「仙臺のラズオは、博覧会が終わると間もなく始まるのですな。」

「そうですね、よくご存知で。電話線も使わず、空中の電波を街中の家で受け取って聴くとか。実に昭和、何が起るかわかりません。」

「そのラズオで、お仕事とはまた。」

「私は、民話、昔話を集め、伝える者です。仙臺の新しい友が、ならば電波に物語を乗せて奥羽中、いや日本中に伝えてしまえばいい、

芭蕉が、背負っているパンドリに括りつけた大きな木箱のような物を指す。

「この箱、おわかりか。実は、ラズオなのです。」

喜善は勿論、驚いた。俗世を隔てた身であるはずの僧侶が、最新技術の粋である娯楽装置を背に持ち歩い

ているとは。

「これは、受信機です。拙僧は、この時代で貴殿方の汽車を、受信、する事に成功致した訳です。」

その意味が飲み込めず、気がつくとき喜善は立ち止まり、同行の面々に追い抜かれていた。

「宮澤殿、そこです。そこが目的地点です。」

芭蕉が呼びかけると、山頂に達していた宮澤賢治や今純三が足を止めた。

「では、第一の石を置きます。」賢治がトランクから小さな麻袋をひとつ取り出す

と、今純三が改めて尋ねる。

「その石について、少し詳しくお聞かせ願えますか。」

袋の中身を掌に転がし、賢治は語り始める。

「青金石はご存知でしょう。」ラピス・ラズリ、つまり瑠璃ですね。僕ら絵描きの

煙では、群青の顔料として知らぬ者はおりません。」

「瑠璃は主に四つの鉱物の結合したのですが、私は

そこにいくつかの要素を新たに合成したのです。」

芭蕉が周囲の樹々を見上げながら歩き回り、一本の

一際高く聳える櫓の樹の下に立ち止まると、幹に手を置いて呟いた。お力を借りよう、と。

*

食料調達班の他の面々の収穫がまだ殆どないうちに、祝魚は梅田川から魚十尾ばかり、台原丘陵から山ぶどうや木通の実、更に時期は早い

山芋の一種まで集めて、獲り方のコツや場所の情報など惜しげもなく仲間らに伝授すると、一刻も経ずして独り脱走し車両のある方角へ走り始めた。

宮澤賢治に頼まれたという事もあったが、南からの風に胸騒ぎを覚えたのも確かだった。獣の如きマタギ

の脚にて忽ちの内に舞い戻ったが、車両の乗客達の様子に異変を察して訊けば、

東の丘に陣取った藤原泰衡の兵供が出現して、三人ばかり連れ去った

というではないか。しかも内一人が例の結核を病む娘・佐々木若と知って仰け

反る程に狼狽した。何の義理もある訳ではないが、祝魚が無賃乗車まで犯して

仙臺に向かったのも、生家の貧しさ故、小田原遊郭に売られて

いった幼馴染の少女を救おうという瞬発的で無謀な経緯である。時間を何百年も飛び越えるという訳のわからぬ事態になり、元の時代に

戻れるのかどうかも不明なまま、別件に命を賭けるのはどうかと思うが、やはり同じ女一人の身の危機となれば看過する事はできない。収穫した魚や果実を投

げるように乗客へ預けると、身支度も直さぬまま東へ向けまた飛び出していった。

*

仙臺を何度か訪れていた若だが、通う病院から遠い榴岡公園には来た事がなかった。その小高い丘からは

確かに、南の平原を眼下に見渡す事ができ、陣を張る、という想定にはびったりだった。しかし史実によれば

遙か南、厚樫山での敗戦の報を受けるや否や、総大将泰衡は慌てふためき、戦

わずして陣を捨て北へ逃げ出したというではないか。病身と認められた若は小

柄な馬に乗せられていたが、肥った商人風の男・山浦琴洋も草履が汚れるとい

うのがつしりした馬の上だった。もう一人の洋装紳士・長里国八郎は老齡だが

姿勢よく、履物も足首までの長靴であるとして「僕はお構いなく」と竹根の杖と

共に歩いていた。蒼い幕で仕切られた丘の上の陣の前で馬を降りると、泰衡は不在であると告げられた。朝駆けからまだ

戻らないという。朝の散歩、という事だろうか。何とも

暢気な総大将だ。陣内に入るかと言われたが、外の木陰の方が良いと、三人で休んだ。

「君は、勇敢なお嬢さんですね。」

長里氏が穏やかに、若へ言葉をかけた。

「全くだで。自ら好んでこ

つた任務に。」山浦氏、扇子で顔を仰ぎながら笑う。

「泰衡という人の顔を、見てみたかったのだ。」

「ほほ、これは只者ではない。僕もそうですよ。大館の教壇で史学を受け持っていましたから。」

「大館というところ、泰衡の死んだ所に近いですね。」

「おつと声が大い、ほほ。流石です。」

泰衡は平泉の都も捨ててひたすら北へ逃げ続け、若の時代の大館町の近く、比内にて家臣の裏切りに合っ

て大死にする。実に情けない最期なのである。

「弱虫のバカ殿様でも、かの義経公どころか、実の弟君まで殺めておられる恐ろしい御仁。権力者を甘く見たらいかなですぞ。」

無遠慮な山浦氏の物言いに、長里氏ばかりか若までハラハラした。すぐそこに

兵が立って、ジロジロとこちらを監視しているのだ。その時、南に見渡す平原に、三つの騎馬武者の影が

遠く認められ、近づいてくるのがわかった。

「また御館、あげな少ないお供だけで・・・」

そう呆れたように言っ

て、苦笑いする兵がいる。帰還した三騎に群がるようにして、兵達が出迎える。馬上の一人が大声で呼びかけた。



昭和初期の“芭蕉の辻”

「いよいよ山を越えてきたぞ。よく防戦しているが、昼過ぎには軍を解体する事になるべえ。」

「御館、御大將から兵供へ報告しに戻られるなど、聞いた事がないでがす。」

老練らしき家臣が諫めたその武者こそ、総大将泰衡である事を、若は確信した。

若を馬に載せた兵が、西方に発見した奇怪な鉄の塊と数十人もの謎の漂流民について報告したらしく、大

将はズシリと音を立てて馬を降り、自ら兜の緒を解きながら独り歩み寄ってきた。御館、御館、と周囲が

慌てて押し止めようとする中、すっかり兜を脱いだ男が、客人とも捕虜ともつかぬ三人と相対した。

不思議な男性だと、一目見て若は思った。背丈はあるが、蝦夷の頭領というには線が細く、頼りない感じがし、といって山浦氏の表現したような、弱虫のバカ殿という雰囲気はまるでな

い。得体の知れぬ三人を迎える目には一切の疑念も値踏み算段も感じられず、驚いた事にまず自ら頭を下げて名乗ってきたのである。

「伊達次郎、泰衡でござる。」思わず三人、恐縮してお辞儀を返す。その様子を見て優しい笑みすら浮かべるこの武將らしからぬ男に対して、若はすっかり面喰らい、また我が病を忘れさせるような胸の高鳴りを覚えていた。それは車掌に宣言した通り、新たな物語との出会いを予感した語り部としての性と思っていたが、

実は彼女自身がその物語の一部になりつつあるのだとは、まだ若も気づいていなかったたのである。

―次回予告―

頼朝二十万の大軍、ついに名取川に迫る！泰衡はやつぱり逃げるのか？それとも少女との対話が楽しすぎて逃げ損ねるのか？

シリーズ 遠野の自然
「遠野の花々」③
遠野 1000 景より



レンゲショウマ

遠野の花シリーズを開始して以来、筆者も野に咲く花に関心を抱くようになった。特に高山植物は遠野の花々と共通しているものも多く興味深い。先日榛名山に行ったが、そこに高山植物の写真が掲載されていて、「ニッコウキスゲ」「ツリガネニンジン」を見つけてうれしくなった。

部しか紹介しきれないくらいに、その種類も多い。そしてめったにお目にかかれないものも多いし、可憐で後を引く花もある。今回は、それらのなかでも特に厳選した花々をお届けする。これらは遠野の宝であるだけでなく、日本の宝でもある。

ナツズイセン…ヒガンバナ科の多年草。スイセンと名がつくが、水仙の仲間ではないらしい。きれいな花にはトゲがあるというが、この花には毒がある。

レンゲショウマ…花が蓮に、葉がサラシナショウマ（晒菜升麻）に似ているので、レンゲショウマ（蓮華升麻）の名がつけられた。花は可憐だが、葉には鋸歯がある。ことわざ通りである。

ガクアジサイ…普段見かけるアジサイの原種。ガクアジサイは周囲の花びらだけが開く。それがちょうど縁のように見えるところからこの名がついた。

ホツツジ…穂躑躅と書き、ツツジ科でツツジの仲間でも似ていない。有毒で、誤食すると、嘔気、頭痛、発汗、酩酊昏睡、痙攣などを引き起こす。これらの毒は花粉にも含まれ、蜂蜜に混入して食中毒を起こすことがあるという。怖い花。

トチバニンジン…栃葉人參と書き、日本原産の薬用植物でもある。球状につく黄緑色の小さい花はまるで線香花火のようだ。

ツリガネニンジン…釣鐘のような花が段々にぶら下がっていてかわい。しかし歯には鋸歯がある。春の若い芽は、山菜のノノバとして食用にされるという。

ネジバナ…文字通り振花。花が花茎の周りに螺旋状に並んで咲く。「ネジレバナ」、「ネジリバナ」、「ねじり草」とも呼ばれる事もある。右巻きと左巻きの両方があるという。

ミスアオイ…水田の畦や湖沼などに生息する。かつては水田雑草としてよく見られたが、水路の改修や除草剤の使用などによって生息環境が悪化し、個体数が減少している。今は貴重種。

シラン…紫蘭と書き、ラン科の宿根草。野生のものは準絶滅危惧種。白のシランはまさに高貴といった印象。

オニユリ…大きな花で、堂々として存在感がある。似ているものにコオニユリ（小鬼百合）というのがある。見分けるのは難しいが、葉の付け根にムカゴがつくのがオニユリ、つかないのがコオニユリという。ムカゴは食用となる。



ナツズイセン

遠野の九月は秋祭りの季節である。それは自然界の花ならぬ、人間の華であり、色とりどりの華が咲く。まずは、遠野の各神社の例祭、例大祭等で郷土芸能の華が咲く。そして九月二一日と二二日は「遠野祭り」が開催される。筆者も昨年に続き出かける予定である。



ツリガネニンジン



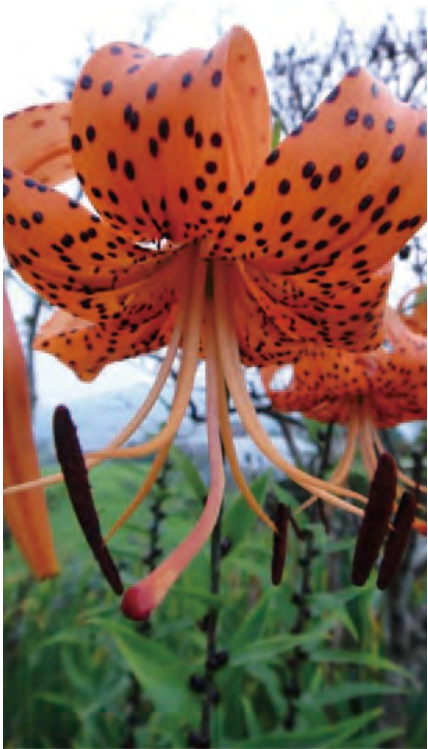
トチバニンジン



ホツツジ



雨上がりのガクアジサイ



オニユリ



白花のシラン



ミスアオイ



ピンクのネジバナと蝶

「東日本津波原発大震災」、略称として「津波原発大震災」と変更すべし

大震災の名称変更を呼びかけるご住職

『津波と原発事故災害の風化を防ぐために「東日本津波原発大震災」「津波原発大震災（略称）」と呼び変えよう』 永正寺住職 水谷大定氏寄稿

笑い仏さん

福島への行脚

第十回



ご住職と笑い仏

写真展のパネルを見ながら、津波と原発事故災害の風化を防ぐため、復興を全国民の課題として取り組むための持論を書きました。

◆ 「東日本津波原発大震災」。名称

みなさんのご協力を得て、原発被害と戦う福島を目指す「笑い仏」さんは、鳥取県倉吉市を出発し、一〇カ寺目の愛知県江南市の永正寺に逗留しています。このたびは、原発被害についても地道な運動をされている、永正寺水谷住職にご寄稿いただきました。

（MONKフォーラム）

あの日から約二年半、二〇一三年八月三日、「笑い仏をみんなで福島にとどけよう」というプロジェクトの一時滞在先として永正寺が選ばれました。鳥取県倉吉の仏師・山本竜門さんが作られた「笑い仏（がれき光背仏）」は穏やかな微笑かな笑みをたたえています。人の世の苦しみを受けて入れ、私たちを癒してくれそうです。このご縁を大切にしたいと思っています。併設の福島の今を伝え

記方法が変わってしまうものでもあるのです。

先の大戦は、大東亜共栄圏を作り五族協和という美名を掲げて進められた「大東亜戦争」と言われていましたが、戦後「太平洋戦争」と改称されました。しかしこれでは一九四一年一月八日から始まった戦争という意味になり、一九三一年からの本格的な中国侵略戦争が含まれないので、「アジア太平洋戦争」と呼称するべきだという歴史家があります。中国、ベトナムから太平洋、ビルマ、インドにまで戦線は拡大していたのですから「アジア太平洋戦争」という名称の方が正確です。先の大戦は日本とアメリカ、イギリスとの覇権争奪戦争にとどまらず、アジア諸国への侵略戦争という性格を併せ持つ意味からも「アジア太平洋戦争」の方が正確に歴史的事実を表現できています。「敗戦」を「終戦」と言い換えた「終戦記念日」は、現実を直視しない日本人の特性なのかとも思います。

震災とは地震によって引き起こされた災害という意味です。地震が原因の原発事故による大災害を「原発大震災」とする用例が既にありました。二〇一一年四月一日に閣議で「東日本大震災」を正式名称とすることを決定して以来、なんのためらいもなく「東日本大震災」が使われ続けています。東日本大震災と原発事

故と併記する場合もありま

す。東日本大震災は関東大震災の広域型ではありませ

ん。津波によって二万人に近い犠牲者があり、原発事故の被害は未だ底知れません。放射能汚染水の垂れ流しが続く、まだ何十年単位で廃炉と除染作業は始まったばかりですが、すでに風化の兆しでしょうか。原発

事故を引き起こし、まだその原因も特定できていないのに原発の再稼働が進められ、日本製の原発の輸出が画策されています。

歴史上の重大事件として、未曾有の津波災害と原発事故災害を明確に記憶するために、風化を防ぐためにも、少し長いけれども、東日本

と大震災の間に「津波原発」の4文字を挿入して「東日本津波原発大震災」を正式名称とするように提案します。毎日のニュースで原稿を読むアナウンサーにも配慮して、東日本にとどまらない全国民的課題として復興に励む意味を込めて、略称は「津波原発大震災」とすべきでしょう。

名称が閣議決定された直後の二〇一一年五月に、東北四県の知事宛にメールと書簡を送りました。半年後の二〇一一年一〇月三日、永正寺で東北支援「さとう宗幸コンサート」を開いたときにも、仙台拠点のさとう宗幸さんに大きな賛同をいただき、その後「東日本津波原発大震災」という新名称を仙台で宣伝して

もらいました。その縁で、ラジオ福島の大和田新アナウンサーから取材があり、

二月一八日に七分間、改称提案についての電話インタビューが生放送で流れました。

震災から一年経った二〇一二年四月に福島県の各市町村長あてにも書簡を送り、その封筒の裏にも「東日本津波原発大震災」と筆で書いて名称変更を提案しました。しかし返事はありません。震災の対応だけでも精一杯の様子が想像できます。各新聞社の投書欄にも投稿しましたが採用はありません。

◆ 僧侶である私は、いつも戒名の字選に苦労しています。僧侶としての教養・品格・知性いわゆる境涯が問われます。限られた時間に、俗名の一字を入れ、性格・職歴・趣味を考慮して、遺族の故人への愛惜・思慕する気持ちを汲み、自然に菩提を弔うような雰囲気を出さねばなりません。字画と字形を考慮して、位牌に墨書しても形を整えやすい四文字を選び、音読しても響きが美しくと。ほめすぎず、立派すぎず、さりげない戒名。亡くなったときの季節や咲く花の名前を入れたり、詩的、哲学的な意味も持たせる。工夫のし甲斐があります。その習性が今回の「東日本津波原発大震災」提案にも表れているのかと思います。

阪神大震災に震源地の淡路が後から加えられ「阪神淡路大震災」とされたように、被災の実態を表す「津波原発」の四文字が挿入された「東日本津波原発大震災」は、被災地で「そのとおり」と共感を呼んでいますが、現地では未だに名称変更などを考える余裕がありません。原発再開を目指すす人にとっては「原発大震災」と改称されることは困るに決まっています。しかし、福島

の復興を願い、原発事故の風化を許さないために「東日本津波原発大震災」という名称が普通の会話・文章に使う人が増えていくことを期待しています。原発推進をする今の政府が、これは良い提案だからと正式名称として採用する筈がありません。原発事故の風化を許さず自然エネルギーへの転換を目指す立場に立つならば、「東日本津波原発大震災」、略称として「津波原発大震災」という名称をあえて使うべきだと思います。

◆ 福島、東北の復興を願う「笑い仏」が福島に届くころ



永正寺

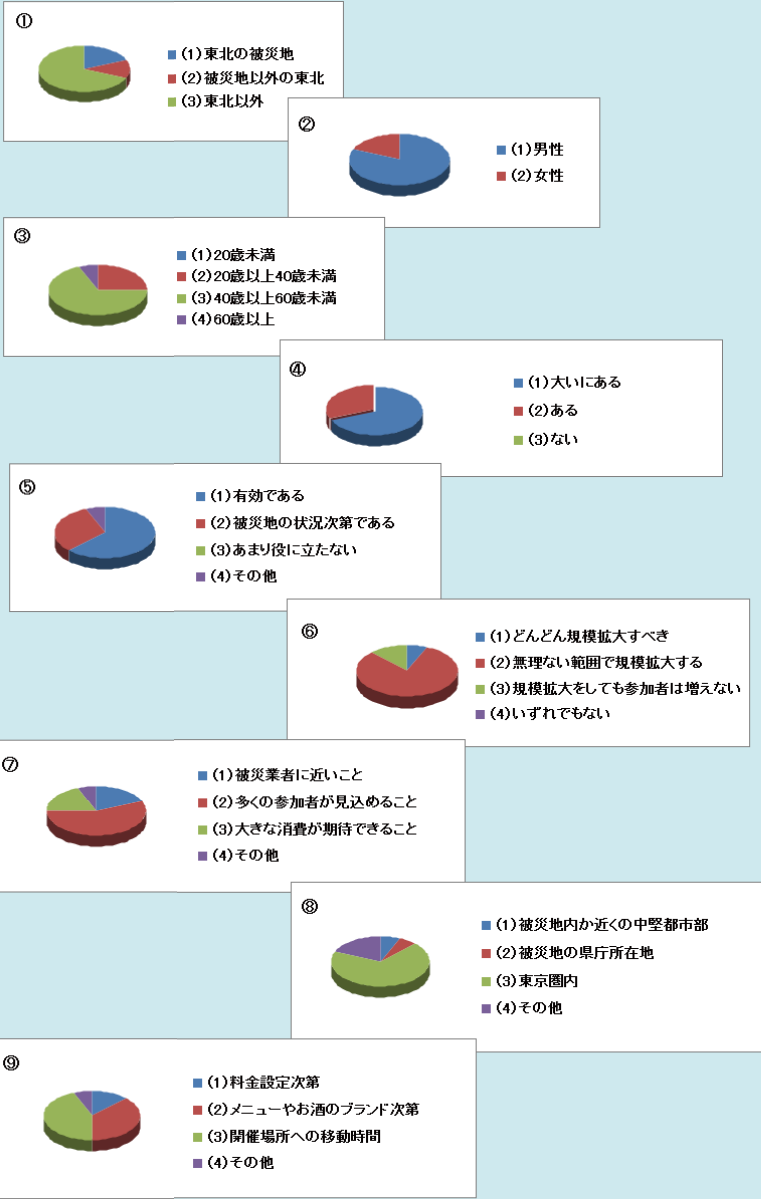
には、この名称が全国へ広がることを願っています。

◆ 【みずたにだいじょう一九四五年生まれ。静岡大学人文学部法経学科卒業。一九八八年臨済宗妙心寺派永正寺住職。生花を飾る「永正寺型花御堂」・池坊立花速習用二段剣山・独僧用鼓鉢台「無伴僧」・金額別当日香典返し商品券「蓮の実」・缶ビール祭壇等を創案。遺族の悲しみに寄り添う「葬儀改革」を実践。】

【永正寺】
〒483-8083
愛知県江南市高屋町中屋舗46（名鉄犬山線・江南駅からタクシーで約10分）
電話：0587-562584
Fax：0587-545251
e-mail：teishoji@xj.commu4jp

第15号 ネットアンケート集計結果
復興支援イベント【三陸酒海鮮会】について

No.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北の被災地	3
	(2) 被災地以外の東北	2
	(3) 東北以外	11
②	性別	
	(1) 男性	13
	(2) 女性	3
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	4
	(3) 40歳以上60歳未満	11
	(4) 60歳以上	1
④	【三陸酒海鮮会】への興味	
	(1) 大いにある	11
	(2) ある	5
	(3) ない	0
⑤	【三陸酒海鮮会】の支援の有効性	
	(1) 有効である	10
	(2) 被災地の状況次第である	5
	(3) あまり役に立たない	0
	(4) その他	1
⑥	【三陸酒海鮮会】の規模拡大	
	(1) どんどん規模拡大すべき	1
	(2) 無理ない範囲で規模拡大する	13
	(3) 規模拡大をしても参加者は増えない	2
	(4) いずれでもない	0
⑦	【三陸酒海鮮会】の出店場所の選定理由	
	(1) 被災業者に近いこと	3
	(2) 多くの参加者が見込めること	9
	(3) 大きな消費が期待できること	3
	(4) その他	1
⑧	【三陸酒海鮮会】の規模拡大の場所	
	(1) 被災地内か近くの中堅都市部	1
	(2) 被災地の県庁所在地	1
	(3) 東京圏内	11
	(4) その他	3
⑨	【三陸酒海鮮会】への参加/不参加の要素	
	(1) 料金設定次第	2
	(2) メニューやお酒のブランド次第	6
	(3) 開催場所への移動時間	7
	(4) その他	1



今回のテーマは【復興支援イベント『三陸酒海鮮会』について】で、今後の『三陸酒海鮮会』をどう展開して行けばよいのかを探るためのアンケートでした。回答者数は一六名、東北在住の方が約31・3％と少ない結果となりました。

「三陸の酒と海産物を飲み食べるという【三陸酒海鮮会】に興味はあるか？」については、「大いにある」が約68・8％、「ある」が約31・2％でした。「三陸の酒と海産物を飲んで食べて被災地復興を支援する手法の有効性について」は、「有効」が62・5％、約31・3％が「被災地の状況次第」と回答。「規模拡大の計画」については、「無理ない範囲で規模拡大」が約81・3％で圧倒的。「出店場所の選定理由」については「多くの参加者が見込めること」が約56・3％、「被災業者に近いこと」、「大きな消費が期待できること」が同数で約18・8％ずつ。「規模拡大の場所」については「東京圏内」が約68・8％。これは回答者の現住所が影響している結果。「参加するかしないかを決める要素」については「開催場所への移動時間」が最も多く約43・8％、ついで「メニューやお酒のブランド次第」が37・5％という結果となりました。

アンケート結果に基づき今後の運営や拡大を検討していきたいと思います。

夏は例年、さまざまな所用が重なることもあって、「やらなくちゃ」というストレスも貯め込んでいたのですが、これらの要素が逆シナジー効果となり、日頃から運動不足と不摂生をしている小職の身体を絶不調に陥れたという次第。

九月に還暦も迎えた身としては、これぐらいはこなせるはずという思い込みも、結果的に身体に無理を強いたのかもしれない。

また、取材となると、いつもスケジュールはぎゅうぎゅう詰めとなってしまう。年甲斐もなく、あれも見た、聞きたい、行きたいと好奇心を抑えることができなくなる。削るのが一苦勞。

前号にも書いたが、取材用装備一式は総重量二五キロにもなる。これを四六時中背負い、引つ張る。肩こりもかなりひどい。取材とは肉体作業そのものである。好きで選んだ道とはいえ、けっこうしんどい。

それでも、今月もたった二日間で岩手・秋田・青森三県にまたがる取材を予定している。スケジュールもぎゅうぎゅうでも楽しみ、これがいけないのだが、仕方ない。

編集後記

やつぱりというべきか、七月末から八月初めにかけの強行取材スケジュールと、この夏のあまりの暑さで、長期の体調不良状態に陥ってしまった。

革物屋（かわもんや）WEB完全リニューアル（WEBを移動しました）

<http://www.birthday-press.com/>（バースデypress）→「小物のカテゴリー」→「レザー」

ミニバッグ Handy Second



持っていたくなる革バッグ。インナーバッグとしてもお使いいただけるセカンドバッグ。革は薄めの柔らかなものを使用し、手触り感を重視いたしました。内側は耐久性のある光沢ナイロン製布を使用。

ミニバッグ Tiny Dice



用途ご自由の四角いケース。重量 40g と比較的軽量の製品ですので、携帯ストラップ用としてお使いいただくもよし、大きなバッグに吊り下げてもよし。また、中に贈り物をつめてプレゼントケースとしてのご利用も一考かと。使い方は工夫次第。

ミニバッグ Tiny Log



用途ご自由のまるいケース。重量 40g と比較的軽量の製品ですので、携帯ストラップ用としてお使いいただくもよし、大きなバッグに吊り下げてもよし。また、中に贈り物をつめてプレゼントケースとしてのご利用も一考かと。使い方は工夫次第。

モバイルバッグ Beans L



レザーでオールマイティ、両方のご満足。これまで、オールレザーでお手頃価格のモバイル端末用バッグは多くありませんでした。また、各モバイル端末専用バッグはありましたが、どの端末でも収納可能なオールマイティバッグも多くはなかったようです。Beans L は、その両方でご満足いただけるバッグです。

モバイルバッグ Beans S



レザーでオールマイティ、両方のご満足。これまで、オールレザーでお手頃価格のモバイル端末用バッグは多くありませんでした。また、各モバイル端末専用バッグはありましたが、どの端末でも収納可能なオールマイティバッグも多くはなかったようです。Beans S は、その両方でご満足いただけるバッグです。

モバイルバッグ Handy Pouch



あなたにお供するポーチ。持ち運び可能で、デスクやテーブルに置いて開け閉めできるポーチ。上下蓋部分の内側にスポンジを挟み込んでおりますので、モバイル端末機器の付属品の収納にもお使いいただけます。